



〒399-8103
長野県安曇野市三郷小倉6086-2
社会医療法人城西医療財団
ミサトピア小倉病院
TEL0263-76-5500(代)
FAX0263-76-5501

精神科療養病棟150床
老人性認知症疾患療養病棟50床

連載コラム 院長室だより 病院長 篠崎英夫

これからの 認知症対策

現在、我が国には250万人を超える認知症患者が居るとされ、さらに今後の20年間は団塊の世代が高齢期にかかるため、その数は400万人に達すると言われています。認知症の初発症状が、記憶や認知の障害であることから60歳を過ぎれば誰でも不安がつのります。加齢とともに物忘れは始まるからです。

WHOの国際疾病分類はアルファベットのAの感染症から始まり、精神疾患はFからで、認知症はFのトップF00としてアルツハイマー病が、F01に血管性認知症が、F02狂牛病やエイズなどのその他認知症、F03で特定不能の認知症と分類されています。ちなみに統合失調症はF20-29、うつ病を含む気分障害はF30-39です。

認知症を精神科で扱う事に異を唱える人もいます。確かに統合失調症と比べるとより器質的で脳の高次機能障害とみた方が良いかも知れません。最近はMRIのような画像診断も導入されましたから病態がより明確に判別できる事もあります。BPSDと呼ばれる精神行動障害が認知の障害に加えてみられますから家族や介護者の負担は並大抵のものではありません。

しかし先ず正しい診断が第一です。正常圧水頭症のように治療可能性認知症と呼ばれるものもあるからです。その後に患者を地域で支えるための地域診療ネットワークの構築が是非とも必要です。当院と、新たに開設したミサトピア小倉病院と共同して地域貢献したいと考えています。

表紙写真

写真タイトル：「秋の散歩道」 撮影者： 薄井 尚介 （ミサトピア小倉病院院長）

撮影者のコメント：黒沢川沿いのさくら紅葉を撮りました。

精神科病棟だより

統合失調症について

副院長 桑村 智

統合失調症は青年期に好発して精神症状及び行動障害を呈する疾患です。発病率は1%前後と言われており決して稀な病気ではありません。近代的な研究がなされて百年以上が経ちますが、21世紀となった今でもその原因については仮説の域を出ていません。幻覚や妄想、連合弛緩など周囲から分かり易い症状と感情の平板化や意欲の減退など周囲との関わりを避ける症状とが混在するため実に複雑な疾患です。このため家族を含めて良好な人間関係を維持することが難しく、社会生活の上でも大きな障害となります。このため心理的・薬理的・社会的治療がバランス良く且つ包括的に行われる必要があります。

昨年、私が大学病院に勤めていた時代に指導して下さった先生に十数年振りにお会いしました。その時口にされていたのが「十数年前に比べると治療場面で著しく興奮する患者さんが少なくなった」という事でした。これには私も全く同感で、この十数年の間に变化したのはいったい何であろうかと考えました。当時は大きく分けて2種類しかなかった抗精神病薬が今では6種類を超えております。非定型的抗精神病薬と呼ばれる新薬群は、その切れ味は古典的な薬剤に劣るものの、これまで悩まされてきた薬による副作用をほとんど示さないという大きなメリットがあります。これにより発病初期から安定した服薬を継続できるため症状が悪化しにくいのではないかと考えます。

もう一つが作業療法を中心としたリハビリテーションです。国内においてもデイケアと呼ばれる集団作業療法の歴史は長いのですが、どちらかと言えば「患者さんに居場所を与える」といった要素の大きなものでした。近年では患者さんの個々のニーズや家族・社会的背景に考慮したきめ細かなプログラムが提供されています。特に包括型地域生活支援プログラムや就労支援など社会生活技能の改善に向けた取り組みが多くなされており、その成果を挙げています。

更には、2002年に行われた名称変更の効果も少なくないと感じています。過去の「精神分裂病」という病名はどこか物々しく怪奇な印象が強かったのですが、知覚や思考の統合にアンバランスがあるというこの病気の本質を新しい名称としたことにより、診察の場面でも治療に結び付けやすくなったと感じています。

精神科病棟レク セタ飾り



七夕の季節となり、月遅れの「七夕」の行事が2つの病棟で行われました。

短冊に「天の川」・「七夕さま」と書く患者さま、「お金持ちになりたい」・「退院したい」と素直な気持ちを書かれる患者さま、「世界平和」・「家族が健康で暮らせますように」など、気配りの気持ちを書かれる患者さまもいらっしゃいました。

飾りものも患者さまが作られ、記入された短冊とともに、患者さま自身が笹に結び、その後、「七夕」の歌をみなさんで歌われました。

そして、おやつに食べた「七夕ゼリー」が何よりうれしく美味しかったようです。



介護療養病棟だより

認知症病棟での看護師の役割

看護長 大澤 孝子

朝一番に、「〇〇さんおはようございます」と目線を合わせて言葉をかけると必ず言葉が返ってきます。言葉がスムーズに出せない患者さまには、顔を近づけてあいさつをし、手や体に触れながら反応を待つと、表情や視線で返してくれます。試行錯誤をしながら患者さまが何を訴えているのか、把握できるように努力しています。

また、多くの患者さまが、認知症疾患の他に内科的な経過観察や治療の必要な病気をもって入院されています。ほとんどの患者さまが、自身で不調を訴えることができないため、看護の穴感を活かし見た目から体調の変化・異常に早く気づくことが大切です。さりげなく観察しながら接しています。

日中のホールは、懐メロ、童謡の音楽が日替わりで流れ、時には、壁にアニメを映すなど（スタッフの趣味）、患者さまが、出来ること、好きなことを積極的に病棟活動に取り入れて、とてもにぎやかに過ごされています。認知症疾患によって、身体機能低下、脳の機能低下がみられたとしても、ひとりひとりの能力の範囲の働きかけることで、体を動かしたり、表現したりして、人との交わりを楽しめる能力が発揮できるように、導いていくお手伝いをしています。

認知症疾患の看護は、これでいいという限界はありません。常に、これでよかったのか、別の方法が良いのか…を考えながら、安全を第一に、現状維持、問題症状の軽減、喋りたい言葉を自分自身の言葉で語ってもらい、体を動かし、仲間と交わり、出来る限り不自由なく快適な療養生活を過ごせるお手伝いが何より大切だと考えています。

これからも、患者さまの能力範囲内で少しでも快適で充実した療養生活ができるように岸川先生、内科医の薄井先生とチームで対応しています。

日中のホールの様子

紙芝居の読み聞かせ



病棟の日中活動の1つとして、読み聞かせを取り入れています。絵本から始まった読み聞かせ、今では紙芝居を使い、“より聞きやすく、見やすく”と考え行っています。ここで重要なのは演技力。看護長を筆頭に、子育て経験者の読み方には患者様を引き付ける力があります。興味がなかった方も自然と集中して聞き入ってしまうのです。反応を見ながら対応できるのも読み聞かせの良い所です。これから患者様の楽しみのひとつになれば、と考え取り組んでいます。



フラワーアレンジメント

暖かい季節は、お花が多くなりフラワーアレンジメントも活発になります。参加できる方は限られていますが、色とりどりの花に囲まれ、各自楽しそうに参加されています。これからは、コスモス・ススキなどでいっぱいになり、病棟が秋らしく変化していくのも楽しみの1つです。

作業療法 患者さまの作品紹介

作業療法とは、心身の健康を維持するため、また回復を図るために、様々な活動を用いて行う治療のひとつです。

当院では、患者さまの治療方針に沿って、安心できる場、体験できる場、継続的に活動できる場、自然なコミュニケーションがとれる場などの提供を目的として、心身の状態に合わせて活動を行っています。活動の形態として、個別活動と集団活動があり、個別活動では、裁縫・編み物・ビーズ手芸・紙細工などのプログラムが、集団活動では、音楽・運動・調理や屋外での畑作業などのプログラムがあります。今回は、個別活動での患者さまの作品の一部をご紹介します。

バッグ

70代・女性・精神科療養病棟の患者さまのパッチワークによる作品です。すべて手縫いで作られており、完成するまでに2ヵ月程かかりました。制作者は、「とてもいいものができた。嬉しい。」とにこやかな笑顔をみせていました。



こいのぼり

60代・男性・精神科療養病棟の患者さまの紙細工による作品です。細かな切り取りやのり付けなどの工程があり、完成するまでに1ヵ月半ほどかかりました。制作者は、「そんなに大変じゃなかった」と落ち着いて感想を述べられており、作業に対する余裕が感じられました。

野菜マスコット

80代・女性・介護療養病棟の患者さま3名による共同制作作品です。作品の野菜は、しいたけ・トマト・なす・かぼちゃ・アスパラ・きゅうり・ピーマンです（手前より左回り）。この作品は、フェルトを縫い合わせ、綿を詰めて作っています。トマトのへた等、細かい部分は、ボンドで張りつけています。制作中は、「かわいい」「これは〇〇だね」など終始にぎやかな雰囲気でした。



作品完成により、満足感や達成感が得られたようです。今後も、活動を通して、患者さまが自己表現をすることができ、より充実した療養生活を送ることができるよう、各プログラムを発展させ、活動の幅を広げていくなどの努力をしていきます。

編集後記

朝晩が涼しくなり、汗だくになった夏の日を思うと寂しくなる季節になりました。りんごやぶどうなどの果物が、盛んに収穫されているのを目にするようになり、また、運動会や秋祭り等の地域の行事も盛んに行われる等、何かと忙しい季節になりました。美味しいものを沢山食べて、出来るだけ体を動かし、寒い冬に備えたいものです。

広報委員長 樋口 孝